

# かみす

Pick up

- ▶ 救える命を救うために
- ▶ 便利な公衆無線LANサービス

特集

まちの魅力再発見

神栖の波を愛し 海を守る

## サーフィン

波崎海岸で30年以上前から開催されているサーフィン大会があります。昨年「茨城波崎SURFING GAMES」と大会名が新たになりました。プロサーファーへの登竜門といわれるこの大会運営を支える小野誠さん(日本サーフィン連盟茨城波崎支部)に特徴や魅力を聞きました。

AR 広報かみすが動き出す



[COCOAR2]



アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳細は12ページ

特集

# サーフィン

神栖の波を愛し 海を守る

約20kmにわたって白い砂浜が続き、太平洋の雄大さを  
実感できる神栖の海岸。サーフスポットとして有名で、  
プロサーファーへの登竜門といわれる大会も開催され  
ています。今回は、サーファー目線で地元の海の魅力  
に迫ります。



環境省「快水浴場百選」選定の波崎海水浴場



自然と一体となって波を待つ



太平洋が広がる日川浜海岸

## 水が澄んだ遠浅の海

太平洋に突き出た茨城県の東南端に広がる日川浜海岸と波崎海岸。太平洋から吹き付ける風が、広大な砂浜に美しい風紋を描き出します。キラキラ光る砂浜を歩いて波打ち際へ。海の水は透明度が高く、水中の自分の足がくっきりと見えるほど澄んでいます。

風車を望む眺めの良さが大きな特徴。サーフィンはもちろん、海水浴や砂丘の植物観察など、丸一日家族でのんびり過ごせます。夏場も駐車場が無料で、県内外から多くの海水浴客や観光客が訪れます。

サーフィンのシーズンは5月から10月、約20kmにわたる広大なビーチに南風が吹く季節です。神栖のサーフポイントは、コンスタントに波が立ちやすく、混み合うことも少ないので、初心者から上級者まで誰でも楽しむことができます。遠浅なので、長い距離を乗れるのも魅力の一つ。まさにサーフィンを楽しむのに理想的な環境といえます。



コンテストディレクター小野誠さん



第1回「茨城波崎SURFING GAMES」表彰式



神栖の波を愛する人たち

## 全国的なサーフィン大会

波崎海岸では、30年以上前からサーフィン大会が開催されてきました。自治体主催の波崎町長杯が神栖市長杯となり、現在は日本サーフィン連盟茨城波崎支部主催の『茨城波崎SURFING GAMES』として続けられています。何度も優勝経験があり、選手兼コンテストディレクターとして大会を支える小野誠さんに、特徴や魅力を聞きました。

「小学生から60代まで、全国から約200人の選手が集まるアマチュアサーフィン大会です。日本サーフィン連盟の公認大会で、キッズ・ボーイズ、ジュニア、メン、シニア、マスター・Gマスター・カフナ、ウィメント、年齢別にクラス分けして試合を行い、公認ジャッジが審査。成績に応じて年間ランキングのポイントがもらえます。大会運営で最も気を揉むのは、当日の波のコンディション。なるべく良い波で、思う存分最高のパフォーマンスをしてほしいです。参加者からは、波崎の大会は良い波が来る、と好評です」



アマチュアとはいえ実力の高い参加者が多いことから、プロサーファーへの登竜門ともいわれるこの大会。神栖市出身のプロサーファー高梨直人さんも、アマチュア時代に出場し優勝を飾っています。

今年の茨城波崎SURFING GAMESは、9月9日(日)に開催予定。素晴らしい技を間近で見る絶好のチャンスです。小野さんに、おすすめの楽しみ方を教えてもらいました。

「自然の波の力だけを利用して、さまざまな技が繰り広げられます。



初めての方でも、すごい技はすごいと、その素晴らしいさが伝わるでしょう。毎年見に来ていただけば、お気に入りの選手を見つけたら、技のレベルや完成度を見比べたり、楽しみがどんどん膨らむはずです。写真が趣味で、撮影した写真を選手にプレゼントする方もいますよ」



## 海岸清掃で海を守る

日本サーフィン連盟茨城波崎支部のメンバーは、長年にわたって海岸清掃を続けており、現在は4月から10月にかけて毎月1回実施。約100人が参加します。地元のメンバーだけではなく、日頃から波崎海岸でサーフィンをしている



千葉や東京のサーファーも参加するそうです。「1回の清掃で、トラック2〜3台分ものゴミが集まります。海から漂着するゴミもあります。が、夏場は花火やバーベキューのゴミが目につきますね。でもサーファーでゴミを捨てる人は絶対いません」と話す小野さん。

東日本大震災の後は毎日ゴミ拾いを続け、1カ月でサーフィンのできるきれいな海を取り戻したとのこと。海を愛するサーファーの努力があるからこそ、美しい砂浜と澄んだ水が守られているのです。「もしサーフィンを始めてみたいと思ったら、海岸清掃に参加するのが近道かもしれません。ゴミ拾いをしながら、ぜひメンバーに声をかけてください。特に中学生や高校生など、若い世代に興味をもってもらえたらうれしいですね。登校の前にサーフィンをするほど



## 2,000人以上が参加 第10回 海岸清掃

海開き前の6月30日、日川浜海岸で神栖市海岸清掃実行委員会による海岸清掃が開催されました。多くのサーファーが、市民ボランティアとして参加。家族連れや小・中学生、高校生、企業・団体のボランティアとともに、砂浜のごみを拾い、海岸をきれいにしました。



夢中になれば、早寝早起きの規則正しい生活が送れますよ。夜遊びよりも、サーフィンの方が絶対に面白くなりますから(笑)」

## サーフィンの普及に向けて

サーフィンが好きになったら、次の目標は日本サーフィン連盟のサーフィン検定。波崎海岸では毎年1回実施されています。1級から5級まであり、自分の力を確かめたい人や、昇級を目指す人など約250人が参加。取得した級を目安に大会に出場するなど、ステップアップの励みにもなります。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、サー

フィンが初めて正式種目となり、これまでになく注目が集まっています。日本で世界トップレベルの技が見られるとあって、期待は高まる一方です。この機会に小野さんは、サーフィン普及にはずみをつけたと考えています。

「サーフィンは難しいとか思わず、気軽に体験してください。せっかく身近に素晴らしいサーフポイントがあるので、地元から将来活躍できる選手を育てたいですね」

自然が相手だから、サーフィンは面白い。サーフィンを通して海の知識が身につけば、より安全に海の魅力を満喫できるでしょう。



スペシャルインタビュー

## JPSA公認プロサーファー 高梨 直人さん

### サーフィンの楽しみは無限

両親がサーファーなので、生まれたときから波崎の海を遊び場に育ちました。サーフィンにのめり込んだのは、小学校高学年の頃。学校が終わってから日が暮れるまで、冬場もほぼ毎日海に入っていました。技を覚えるため何度もビデオを見て、しまいにはビデオテープがすり切れてしまったほどです。

全日本選手権で優勝し19歳でプロ資格を取得、20歳からプロとして活動をスタートしました。目指すのは、日本人離れしたパワフルなサーフィン。国内の年間ツアーランキング1位をとるのが目標です。

サーフィンの魅力は、同じ波は二度となく、乗り方も毎回違い、楽しみが無限に広がること。たとえ誰も見ていなくても、技が決まるとものすごくうれしい。でも観客が多い方がテンションが上がって、より楽しめますね。



プロフィール  
神栖市波崎出身。日本を代表するプロサーファーの一人。  
2011年JPSAプロシリーズランキング2位  
2014年JPSAショートボードランキング2位

いま、東京五輪に向けて、サーフィン界は想像以上の盛り上がりを見せています。これを機に、地元の方にもっとサーフィンに親しんでほしいですね。私は、いまでも波崎海岸がホームで、週に3、4回は海に入っています。地元の海は波がイメージしやすいので、練習もしやすい。海が近くにあるというのは、とても恵まれた環境だと改めて感じています。